



令和5年 年頭あいさつ

しなやかな変革で、 地域経済を再生



舞鶴商工会議所
会頭 小西 剛

あけましておめでとうございます。

皆様には、令和5年の新春を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。この新しい年が舞鶴にとりまして、また、皆様にとりまして良き年になりますことをご祈念申し上げたいと思います。

昨年11月、私は舞鶴商工会議所第34期の会頭に再々任いただき、3期目を務めさせていただくことになりました。皆様方におかれましては、引き続きよろしく願ひいたします。

昨年の地域経済を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の拡大による社会経済活動への影響が長期化し、収束の見通しが立たない状況が続きました。そのような中、ロシアのウクライナ侵攻など国際紛争の影響等による燃料・原材料の高騰、また、急速な円安や物価上昇に見舞われたことにより、事業所の収益はますます悪化し、依然として地域経済にとっては、出口の見えない厳しい状況が続いた年でありました。社会生活は、秋以降、様々なコロナ対策の緩和等により、少しずつ回復が進む一方、地域経済と事業経営については、依然として厳しい環境にさらされているところであります。

昨年8月、舞鶴商工会議所は、舞鶴市や京都府に対し、産業政策に関する政策提言を行いました。提言では、鎮守府開庁以来120年を超える歴史をもち、日本海側で屈指の大型造船所をもつ舞鶴は国防と海の安全を担う重要拠点であることから、自衛隊艦艇や海上保安庁巡視船の保守・修繕、洋上風力発電設備の建造など、造船の技術とインフラを活かした「新たな海のものづくり産業」への展開について提案しています。

また、エネルギー産業に関して、本市の基幹産業である電力産業との連携をふまえた次世代エネルギー分野の

産業集積、さらには脱炭素関連の企業誘致など、次世代エネルギーの拠点化について提案をしています。

今回の提言は、100年先をも展望したものであり、この方向性を確かなものにするためには地域が一つにまとまり将来像を共有し、国等に対し声を上げ、想いを届けることが重要であると考えておりますので、ご理解とご支援をよろしく願ひいたします。

さて、このところ、「リスキリング」いわゆる「学び直し」という言葉が、メディアに多く登場するようになったと感じています。

中小企業の強みは、変化、変革のしやすさであり、「リスキリング」いわゆる「学び直し」によって、この強みを最大限生かして成長することが重要であります。

私は、事業者が抱える課題は大きく2つあるものと考えています。ひとつは、経営者の高齢化などによる廃業など、事業継続の問題。もうひとつは、大企業と比べて低いといわれる生産性です。

生産性を向上させるために、時代の変化やトレンド、地域の状況や課題などを敏感に読み取りながら、たゆまない努力と工夫を続ける中で、しなやかに変革することが求められています。

「個人、事業所、そして舞鶴全体が、しなやかに変革し続ける」。

このような努力を、舞鶴のまちが一体となって、総がかりで行っていくことが、次の世代にこの舞鶴の街を引き継ぎ、この先も国を支える地方都市として生き残るための処方箋になるのではないかと考えております。

皆様とともに、しなやかに、そして、したたかに地域経済の自己変革、地域産業のリスキリングに取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしく願ひいたします。

舞鶴商工会議所は、引き続き、舞鶴市当局をはじめ、国・府や関係機関、諸団体との強固で密接な連携のもと、英知を結集するとともに、組織を挙げて諸課題に果敢に取り組んでまいります。皆様の一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。

